

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

マーク式・論述式 (250字～300字)

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

大問5題は昨年度までと同じ。マーク式の設問が34問で変わらず。論述式の設問の制限字数は、今年度も250～300字で分量に変化なし。難易度は、総じて昨年度と変わらず。

出題の特徴や昨年との変更点

マーク式設問の過半を占める文章正誤判定問題は、昨年度の20問から増加して今年度は24問、並び替えの選択問題は昨年度から1問増えて3問であった。正誤の判断基準は、因果関係や年号・年代の誤りを判断させるものよりも、単なる用語の誤りが中心になる傾向が続き、用語のレベルも易しくなりつつある。その分、本腰を入れて論述問題の対策をしてほしいとの大学側の意図のあらわれだろうか。現代史からの出題が比較的少ないことが法学部の特徴だが、昨年度に続いて第二次世界大戦後の知識を求める出題があった。

その他トピックス

歴史総合は試験範囲に含まれていないが、昨年に続いて近現代の日本の動向について問われた。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	マーク式	朝鮮半島史 (古代～現代)	設問1. ②伊藤博文は初代統監で、朝鮮総督府は韓国併合後に設置された。設問3. 高句麗は5世紀に丸都城から平壤に遷都した。設問4. ④ソ連は中国代表権問題を理由に安全保障理事会をボイコットしていた。設問7. ②やや難。満洲国建国時の溥儀は執政で、後に皇帝になった。設問8. Bのクーデタは2021年のことで、時事的な内容である。設問9. ③やや難。消去法で確定すればよい。アジア通貨危機で大きな打撃を受けたのは韓国である。	標準
II	マーク式	民主主義の歴史 (古代～現代)	設問1. イ. デルフォイの神託は、デルフォイという場所にあるアポロン神の神殿からくださった。エ. スパルタは鉄貨を用い、他国との交流を制限していた。設問6. イ. ドーリア式は荘厳で力強いのが特徴で、優美さを特徴とするのはイオニア式である。設問8. 消去法でも解答可能である。イ. 一部教科書に記述がある。エ. アウクスブルクは南ドイツの都市で、ハンザ同盟の中心ではない。設問9. ウ. ジョン王はカンタベリ大司教の叙任問題で、マグナ=カルタを承認する前に教皇に破門された。	やや易
III	マーク式	ドイツ帝国の歴史 (近代～現代)	設問1. イタリア王国の成立→二重帝国の成立→パリ=コミューンの樹立の順が分かれば解答を絞れる。なお、プロイセン欽定憲法の発布は、1848年革命の際の出来事である。設問3. 正解は2だが、4のノルウェーの独立時期(1905年)の判断はやや難。設問4. 文化闘争はカトリック勢力に対する抑圧なので、カトリックの多い1・2(2はカトリックのポーランド系住民が多い)の住民が該当することを読み取りたい。設問5. 1. 1878年のベルリン会議でフランスはチュニジア進出について参加各国の承認を得ており、列強の関心を海外に向けさせるため、1881年のチュニジア支配をビスマルクは支持した。このことは一部教科書に記述がある。設問6. 3. カントは合理主義と経験主義を統合しようと試みた。	やや難

IV	マーク式	オスマン帝国とトルコ共和国(近世～現代)	設問1. 消去法で正解できる問題である。設問2. ロ. ブハラ=ハン国を建てた遊牧ウズベクのシャイバーニーによってティムール朝は滅ぼされた。設問6. ハ. トルコ人はアラブ人と異なる民族であり、アラブ連盟には加盟していない。設問7. やや難。ニ. フランス軍は、フランス政府がロカルノ条約の締結(1925)の前に出されたドーズ案(1924)を受け入れたことでルール地方からの撤退を決定した。	やや易
V	論述式	パレスティナにおけるユダヤ人国家建設(近代～現代)	題意が2つある。一つ目の「ユダヤ人にとってこの土地のもつ意味」は、パレスティナが『旧約聖書』に記された「約束の地」であることを書くが、やや細かい知識である。二つ目の「第一次世界大戦中から建国宣言に至るまでの経緯」は、第一次世界大戦中のイギリスの秘密外交に始まり、1948年にユダヤ人がイスラエルの建国宣言をしたことまでの経緯を書く。 指定語句から、以下の点に触れることを導いていきたい。「シオニズム運動」は、第一次世界大戦前から起こっていた運動で、一つ目の題意である「約束の地」に帰還することを目的とした運動であったこと、第一次世界大戦中にイギリスが「バルフォア宣言」を出し、シオニズム運動を支援する姿勢を示したこと、をそれぞれ書く。 第一次世界大戦後にはパレスティナがイギリスの「委任統治領」となり、ユダヤ人の移住が増加して先住のアラブ人との対立が生まれたこと、第二次世界大戦後にイギリスが委任統治を放棄し、「国際連合」が代わる方法としてパレスティナ分割案を可決したこと、これを受け入れたユダヤ人がイスラエルの建国を宣言したこと、という順番で書いていこう。細かい要素を書きすぎなければ、昨年度よりは字数に余裕をもって書けるだろう。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

時代・分野では、前近代史からの出題が中心だが、時事的な出来事を踏まえて現代史から出題される年もあるの
で、全時代・全分野の網羅的学習は必須である。マーク式問題は、選択肢は一見難解だが、実は基本的な事項で
誤りを判断できるパターンがほとんどである。細かい事項ばかりに注意を向けるのではなく、基本事項の確実な
習得が重要であることを意識しておこう。また、今年度の論述式問題は250～300字と昨年度を踏襲しており、近
年、上限300字が定着している。論述はボリュームがあるため、得点力を伸ばすうえで添削指導を受けることが望
ましい。